産業衛生学特論（Advanced Industrial Hygiene）

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
柴田 英治	１年次 前 期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	産業衛生学特論では産業衛生の現場で発生している問題点を挙げつつ、具体的な現場とこれに対応する測定機器、技術を紹介する。各種の検査技術により働く人々の健康問題の解決法を学修する。産業医経験を有する実務家教員、柴田英治が担当する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（柴田）がすべての授業を実施する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び⑤「自ら積極的に臨床検査学の課題を探求し、主体的に解決しようとする能力と研究的視点を備え、科学的探究心を持ちながら継続的に研究を遂行できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	1. 産業衛生の目的と働く人々の健康の状況について説明できる。 2. 産業衛生で用いられている測定機器・技術、作業環境の評価について説明できる。 3. 職場の環境が働く人々の健康に影響を及ぼすことを説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／教科書の関連部分をあらかじめ読んでおくこと（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／毎回の講義の復習を十分行うこと。（各30分）
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回	産業衛生の現状と課題	柴田英治
	第 2 回	働く人々の健康を守る仕組みと産業衛生技術	柴田英治
	第 3 回	有害危険業務	柴田英治
	第 4 回	作業環境測定の役割と方法	柴田英治
	第 5 回	物理的作業環境と健康障害	柴田英治
	第 6 回	化学的作業環境と健康障害	柴田英治
	第 7 回	社会的作業環境と健康障害	柴田英治
	第 8 回	生物学的モニタリング	柴田英治
	第 9 回	肺内石綿繊維濃度と肺内石綿小体濃度	柴田英治
	第 10 回	作業環境と排気設備の実際	柴田英治
	第 11 回	労働衛生保護具（防毒マスク、化学防護手袋、化学防護服）	柴田英治
	第 12 回	個人ばく露評価	柴田英治
	第 13 回	心理的負荷の評価法	柴田英治
	第 14 回	化学物質管理とリスクアセスメント	柴田英治
	第 15 回	喫煙と産業衛生	柴田英治

評価方法 評価基準	課題レポート80%、講義中の問いかけなどへの対応20%を併せて評価する（100%）。		
教科書	「衛生管理（上）第1種用」 中央労働災害防止協会	参考書等	特に定めない
学生への メッセージ	産業衛生学は働く人々が健康かつ安全に働くことができる環境をつくるとともに、産業活動の中で生じる様々な有害環境ばく露への予防対策を考えるための学問である。作業環境の評価や有害要因の測定方法と臨床検査で用いる手法との共通点、相違点など関連を考えて受講すること。		